

施工説明書

キッチン用タッチレス水栓 ナビッシュ

SF-NAA451SY型

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

警告	「取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。」
注意	「取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じるごとが想定されます。」
△	「注意しなさい！」
(禁止)	「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
(分解禁止)	「分解してはいけません！」
(水場禁止)	「バスルームやシャワールームなどの水場で使用してはいけません！」
(指示)	「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

△ 警告	
(分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※発火、感電したり、異常動作してケガをすることがあります。
(指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをするおそれがあります。
(禁止)	水につけたり、水をかけないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
(水場禁止)	バスルーム等の水かかる所や、表面に水滴を生じるような温氣の多い場所では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
(禁止)	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重い物を乗せたり、挟み込んだりしないでください。 ※電源コードが破損し、発火、ショート、感電の原因となります。
(禁止)	電源プラグを濡れた手で触れないでください。 ※感電の原因となります。
(禁止)	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
(禁止)	交流100V (50/60Hz) 以外では使用しないでください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
(禁止)	直流水電流や異電圧の電源での使用は避けください。 ※火災の原因となります。
(禁止)	電源プラグに付いたホコリは、取り除いてください。 ※電源プラグにホコリがたまると、温氣などで絶縁不良となり、火災の原因となります。 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
(指示)	電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。 ※発火、ショート、感電の原因となります。
(禁止)	水道水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により漏水、発火、ショート、感電の原因となります。
(禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをするおそれがあります。
(指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをするおそれがあります。
(禁止)	給湯機器の温度設定は85°C以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を漏らすおそれがあります。
(指示)	フレキホースの差し直しやストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを漏らす財産損害发生のおそれがあります。
(禁止)	トイレ用洗剤・住宅用洗剤・漂白剤・ベンジン・シンナー・トイレ用ウェットティッシュ・クレンザー・クレジールを使用しないでください。 ※発火、ショート、感電、故障の原因となります。
△ 注意	
(禁止)	衝撃を与えると、もたれかかたりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
(指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財などを漏らす財産損害发生のおそれがあります。
(禁止)	水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損のおそれがあります。

本製品の仕様と条件

電 源	AC 100V 50/60Hz	消 費 電 力	常時：0.8W 作動時：1.4W
給湯器設定温度	85°C以下	使 用 可 能 水 質	水道水および飲用可能な井戸水（※1）
使 用 環 境 温 度	【一般地仕様】 0~40°C 【寒冷地仕様】 -20~40°C	但し、内部の水を凍結させない でください。	
給 水 給 湯 接 続	G1/2		
压 力 条 件	0.06MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) ※2 給水圧力≥給湯圧力 ※3		
感 知 距 離	約40mm(グレーカード：80mm角)	感 知 エ リ ア 幅	約φ5mm
電源コード長さ	1.8m		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

※2：水栓金具が接続された状態での水栓金具の給水・給湯接続部直前の圧力です。

※3：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをするおそれがあります。

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。
また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯器に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10°C高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60°C以下をおすすめします。
- ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合、給湯器の能力・水圧などの条件により給湯器が着火しないことがあります。
- 貯湯式電気温水器は減圧弁にて給水圧力を減圧しているため、湯の流量が少なくなる可能性があります。LIXIL製の貯湯式電気温水器と組み合わせてご使用の場合は、弊社ホームページで組合せ表をご確認ください。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けには専用工具（KG-1またはKG-2）またはソケットレンチ（対辺24）、モンキーレンチ、マイナスドライバーが必要です。

止水栓を設けてください。

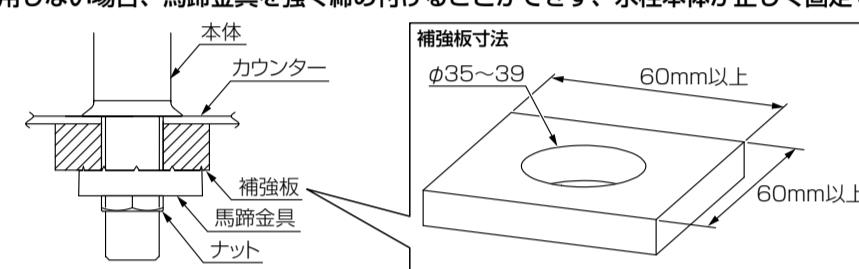
- 取付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓（別売）を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために 流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損のおそれがあります。

隠蔽部に施工する場合は点検口を設けてください。

- 取付後の手動弁操作の施工のために、必ず点検口を設けてください。

補強材を使う場合

- カウンター裏面には、割れにくく固い補強板（合板など）をご使用ください。割れにくく固い補強板を使用しない場合、馬蹄金具を強く締め付けることができず、水栓本体が正しく固定できません。



配管・配線について

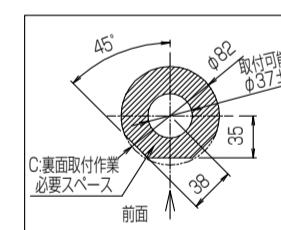
- 給水は水道水に接続してください。
※温泉など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- ACアダプターは必ず指定のものをご使用ください。
- 万が一の危険防止の為、電源の一側に1か所漏電遮断器を設置してください。
- 電源線はφ1.6mm又はφ2.0mm以上のものをご使用ください。（現場手配）
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
- コンセントは1口タイプをご使用ください。
- コンセントは、ACアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
※隠蔽部には設けないでください。
- 水道工事と電気工事は十分工程を打ち合わせのうえ行ってください。
- 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

その他の注意点

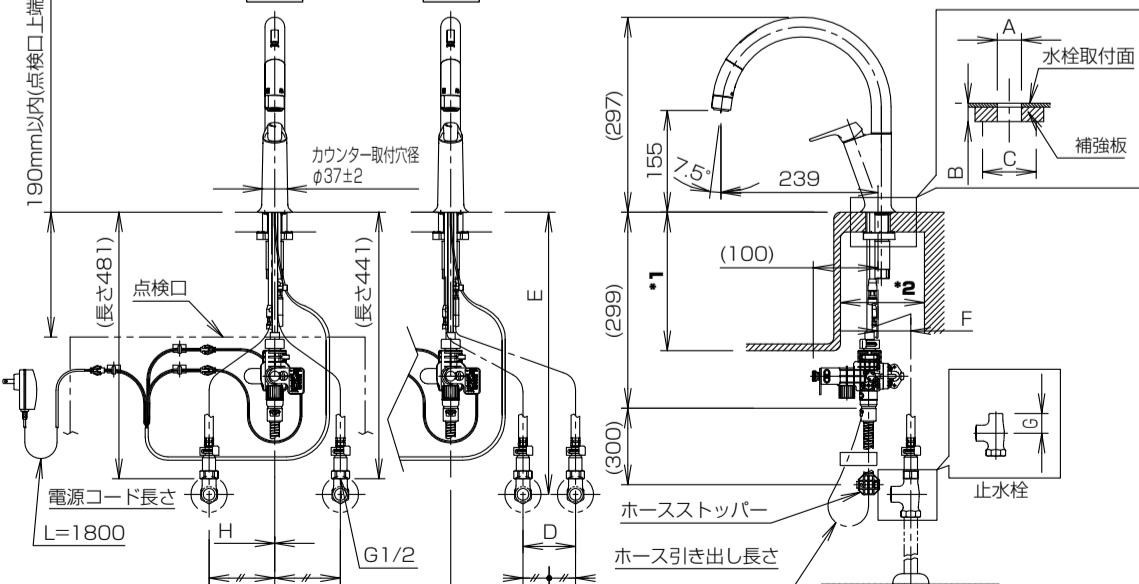
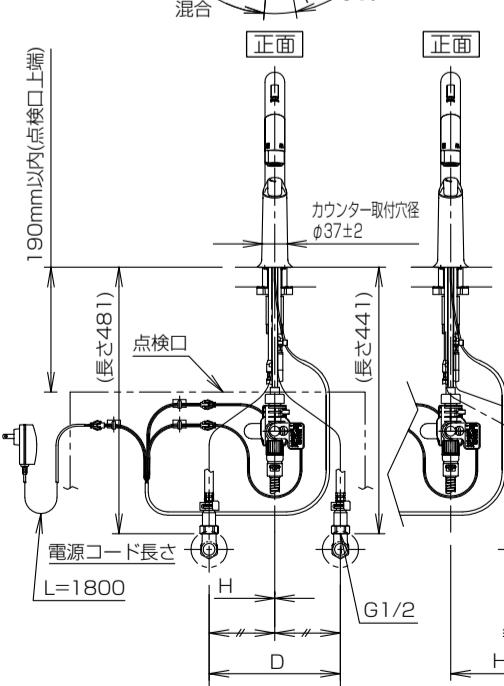
- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱・取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- センサーの窓を傷つけないように十分にご注意ください。
- インバーター照明や赤外線を用いたほかの機器により誤作動する場合があります。
- 直射日光が当たる場所でのご使用は誤作動の原因となります。

施工完了図

SF-NAA451SY型

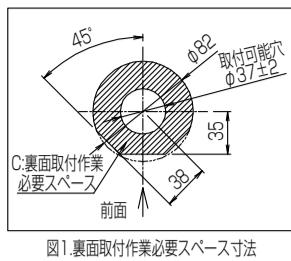


中心振分けの場合	片側偏心の場合
A:取付可能穴径	φ37±2mm
B:取付可能カウンターサイズ	6~30mm
C:裏面取付作業必要スペース寸法	図1に示す範囲以内
D:給水・給湯止水栓芯々寸法	200±10mm 80~100±10mm
E:水栓取付面から給水・給湯用止水栓中心までの寸法	400±10mm 360±10mm
F:水栓中心から給水・給湯用止水栓接続中心までの寸法	0~50mm
G:止水栓の標準寸法	30~35mm
H:止水栓中心から給水・給湯芯までの寸法	0mm 120~150mm



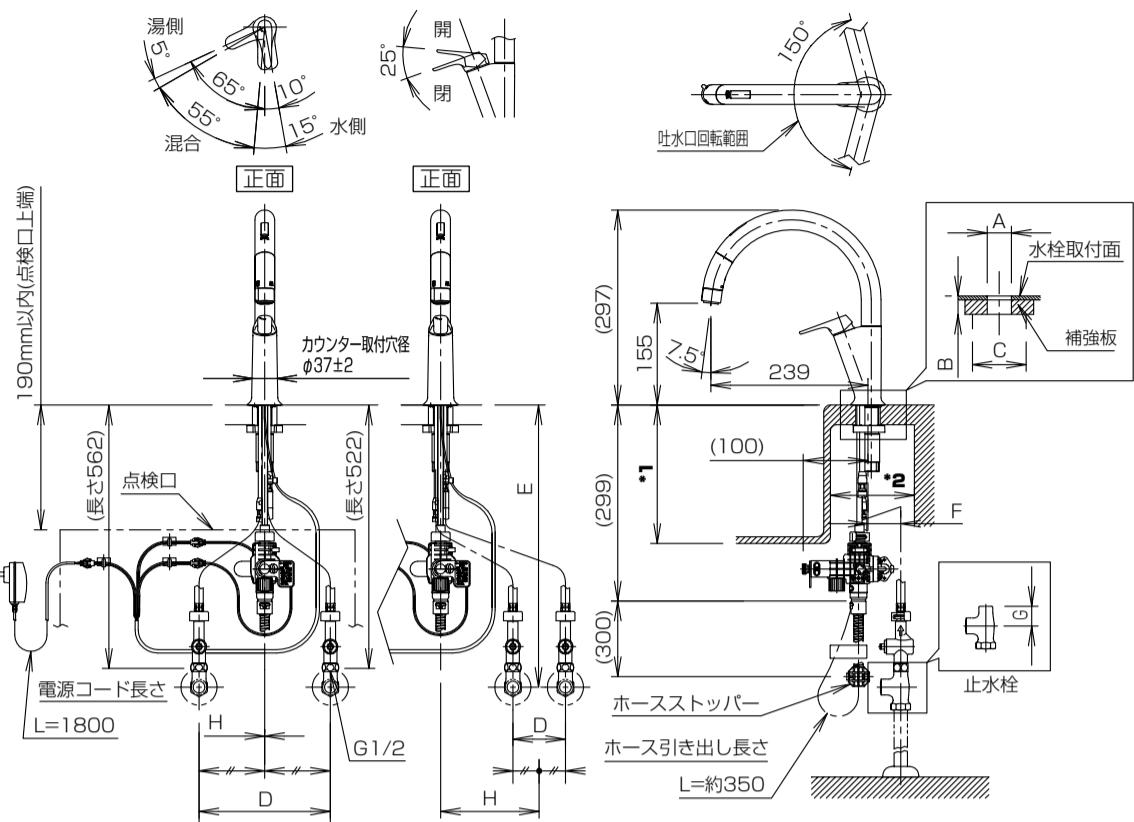
施工完了図

SF-NAA451SYN型



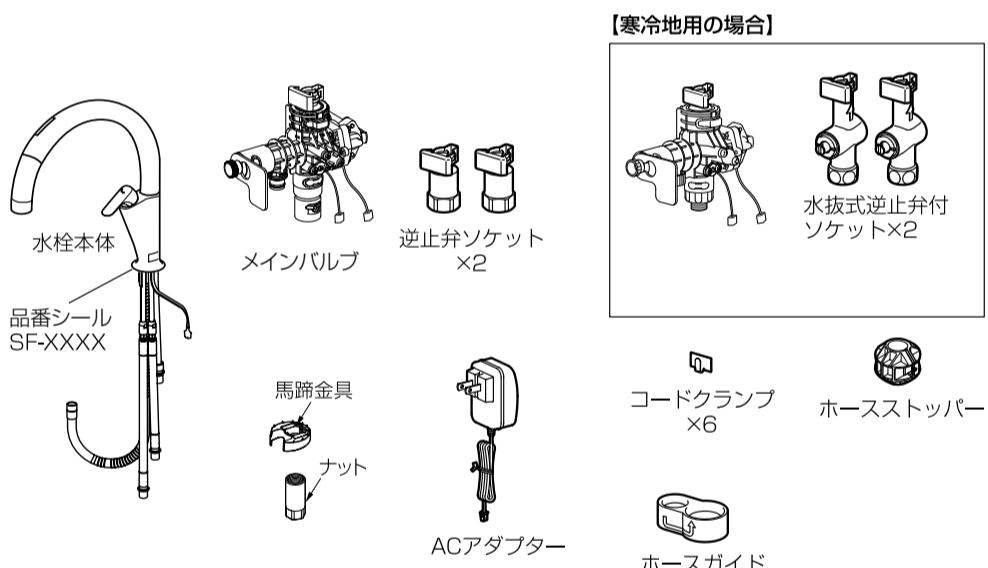
	中心振分けの場合	片側偏心の場合
A:取付可能穴径	φ37±2mm	
B:取付可能カウンター厚さ	6~30mm	
C:裏面取付作業必要スペース寸法	図1に示す範囲以内	
D:給水・給湯止水栓寸法	200±10mm 80~100±10mm	
E:水栓取付面から給水・給湯用止水栓中心までの寸法	400±10mm 360±10mm	
F:水栓中心から給水・給湯の止水栓接続中心までの寸法	0~50mm	
G:止水栓の標準寸法	30~35mm	
H:水栓中心から給水・給湯栓の中心までの寸法	0mm 120~150mm	

図1裏面取付作業必要スペース寸法



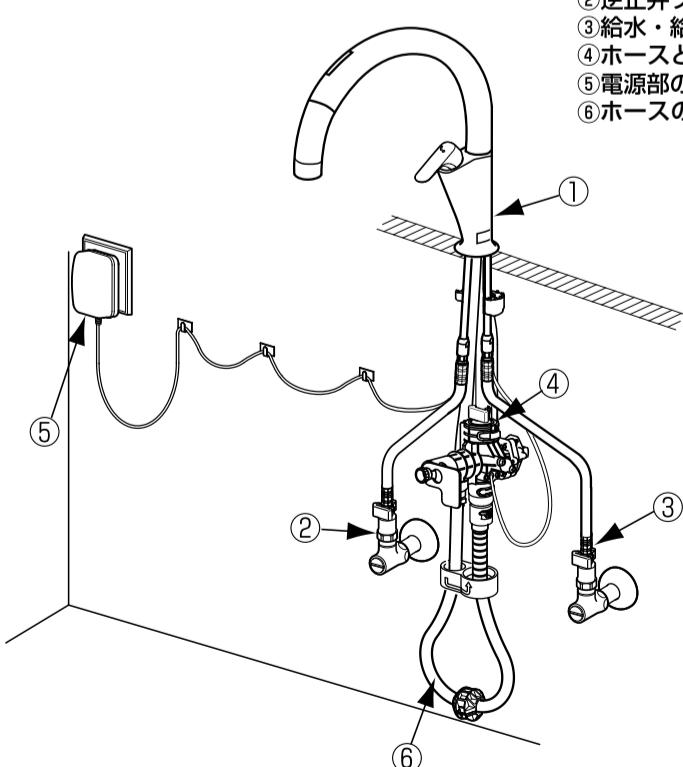
- 品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。
- シンク深さ(厚み含む) *1寸法が220mm以上の場合 *2寸法が145mm以上ないと、バルブがシンクと干渉し施工できません。 *1寸法が220mm以上かつ*2寸法が145mm未満の場合は当社お客様相談センターまでお問い合わせください。
- 水栓取付面から上方425mmより低い位置に棚や物がある場合は施工できません。
- 使用時には、水栓取付面から上方375mm以内に他器具(昇降キャビネットの取っ手を含む)のないようにしてください。
- 水栓取付面からシンク下の底板(棚板)までの距離が540mm以上ないと、ホース収納時に底板(棚板)との干渉が大きくなり、使用上問題はありませんが、ホース収納性が悪くなります。
- コンセントは電源コードの届く範囲で、床面より高く水のかからない位置に設置してください。

部品の確認



2. 施工手順

- ①水栓の固定
- ②逆止弁ソケットと止水栓の接続
- ③給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続
- ④ホースとメインバルブの接続
- ⑤電源部の接続
- ⑥ホースの収納性の確認



3. 施工方法

1. 水栓を固定する

1. ホースの先端が固定軸の中にかくれるまでハンドシャワーを引き出す。

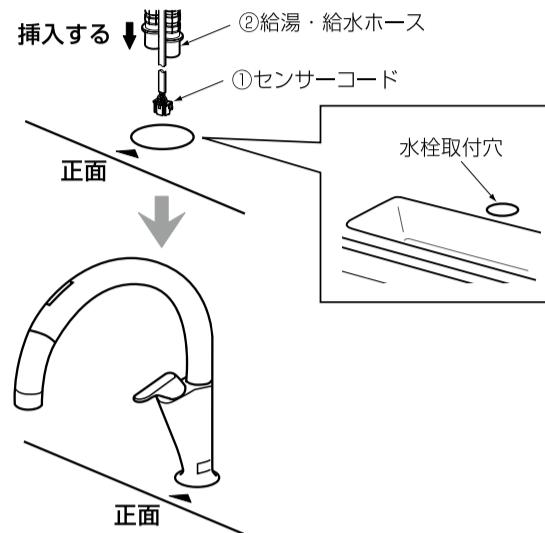


注意

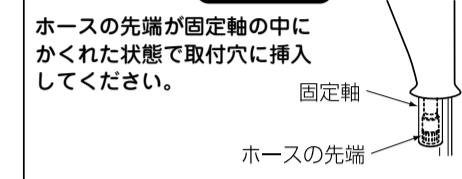
落下注意
傷や破損の原因となります。
※Oリングに傷がついたりゴミが込み込むことで漏水の原因となります。

落下注意
先端のキャップはそれそれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミが込み込むことで漏水の原因となります。

2. センサーコードを先に水栓取付穴に挿入し、続いて給水・給湯ホースを挿入する。
水栓本体が正面を向くように水栓取付穴に挿入する。



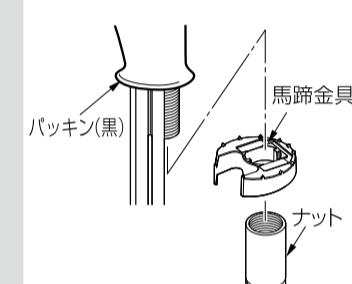
ポイント



注意

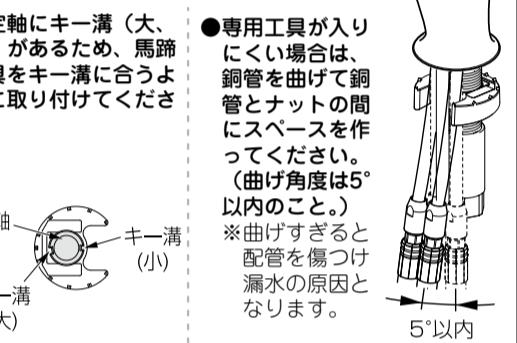
センサーコードをはさまないようにしてください。
※コードが破損し、発火・ショート・感電の原因となります。

3. 馬蹄金具を固定軸に挿入してナットで仮固定する。水栓本体が取付穴の中央にくるように注意する。

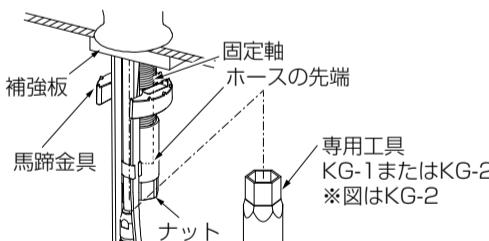


ポイント

●馬蹄金具から手を離しても落ちてこないよう、一時的に固定軸に引っ掛けられるようになっています。



4. ナットをさらに締め続け、音が鳴り始めてから1/2回転以上増し締めします。KG-2(推奨)(締付トルク10N·m程度)



ポイント

音が鳴り始めてから1/2回転増し締めしてください。

確認

水栓本体にぐらつきがないこと。

2. 逆止弁ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー・固定リング・樹脂キャップを外す。



注意

パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因となります。

2. 逆止弁を止水栓に固定する。

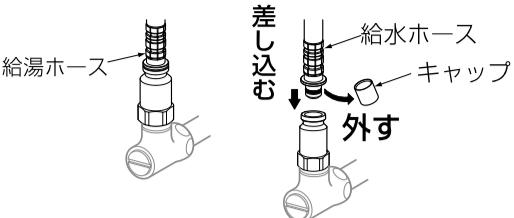


注意

締付けはナット部に工具を掛けて、しっかりと固定してください。
※締付けが不十分であったり強く締め付けすぎると、漏水の原因となります。

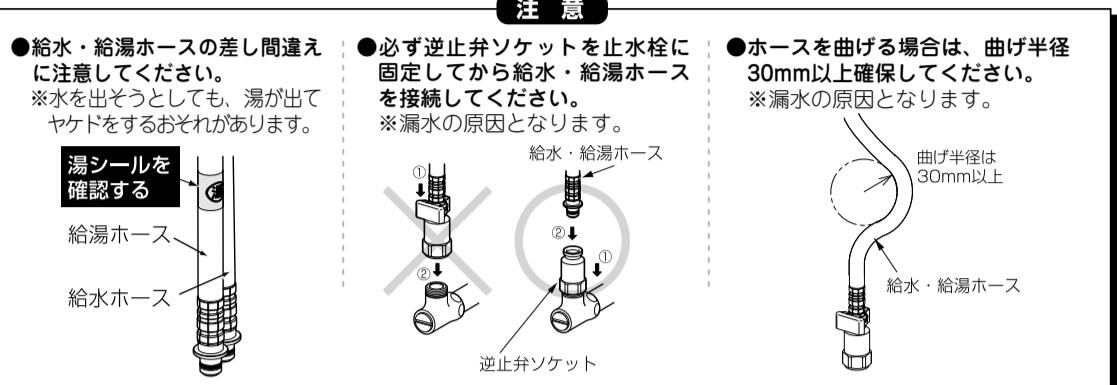
③ 給水・給湯ホースと逆止弁ソケットの接続

1. 給水・給湯ホースを逆止弁ソケットに差し込む。

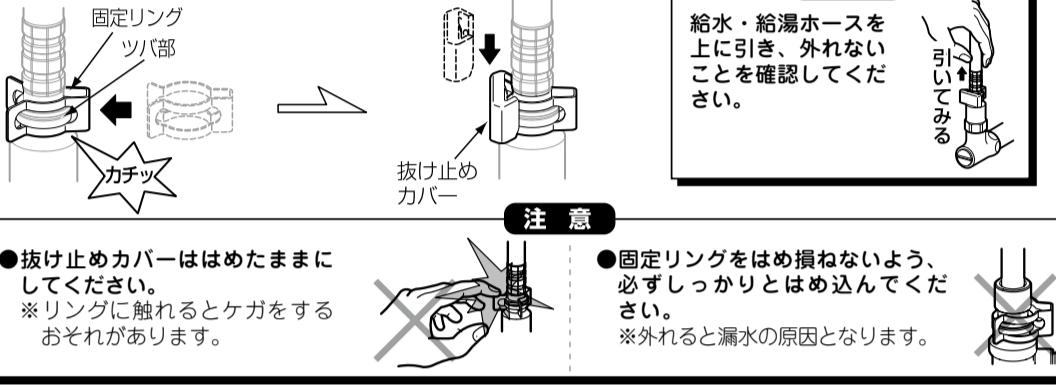


注意

●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。



2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



確認

給水・給湯ホースを
上に引き、外れない
ことを確認してください。

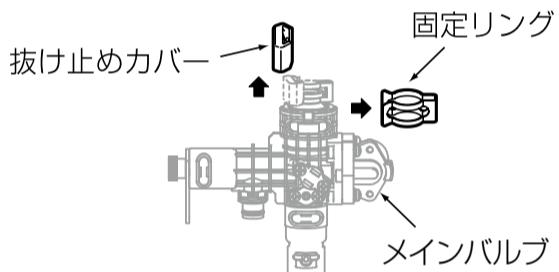
注意

●抜け止めカバーははめたままにしてください。
※リングに触るとケガをするおそれがあります。

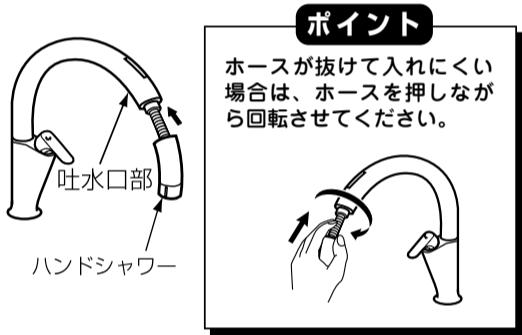
●固定リングをはめ損ねないよう、
必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

④ ホースとメインバルブの接続

1. メインバルブの抜け止めカバー・固定リングを外す。



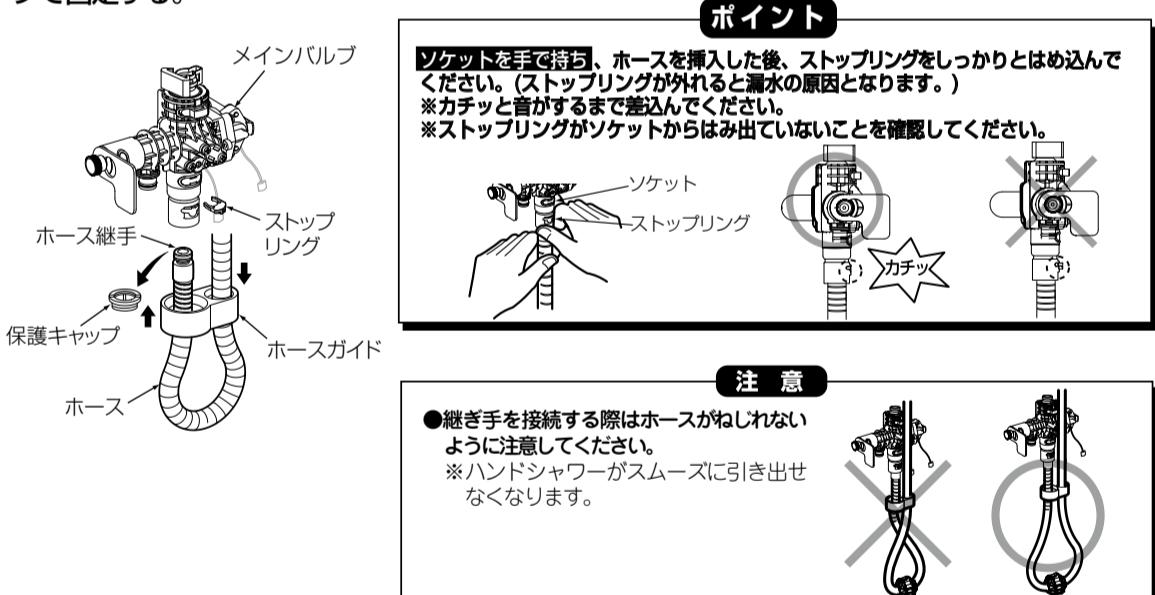
2. ハンドシャワーを吐水口部に収納する。



ポイント

ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させてください。

3. ホースをホースガイドの矢印のとおりに通し、ホースがメインバルブの端子と干渉しないように、メインバルブの右側にもってくる。ホースをメインバルブのソケット部に差込み、ストップリングで固定する。



ポイント

ソケットを手で持ち、ホースを挿入した後、ストップリングをしっかりとはめ込んでください。(ストップリングが外れると漏水の原因となります。)

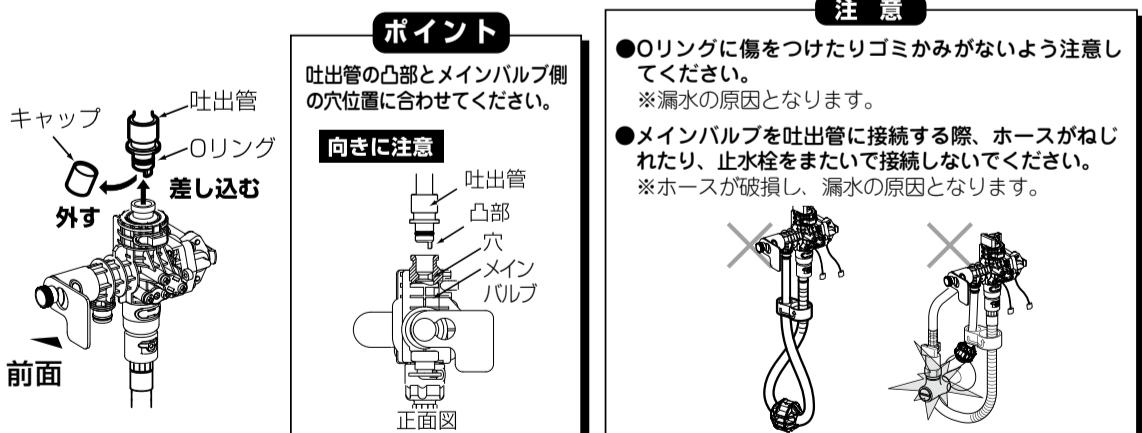
※カチッと音がするまで差込んでください。

※ストップリングがソケットからはみ出でないことを確認してください。

注意

●継ぎ手を接続する際はホースがねじれないように注意してください。
※ハンドシャワーがスムーズに引き出せなくなります。

4. メインバルブを吐出管に接続する。



ポイント

吐出管の凸部とメインバルブ側の穴位置に合わせてください。

向きに注意

●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

●メインバルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をま太いで接続しないでください。

※ホースが破損し、漏水の原因となります。

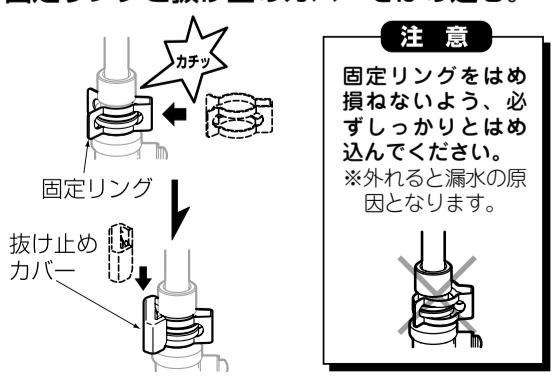
注意

●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないよう注意してください。
※漏水の原因となります。

●メインバルブを吐出管に接続する際、ホースがねじれたり、止水栓をま太いで接続しないでください。

※ホースが破損し、漏水の原因となります。

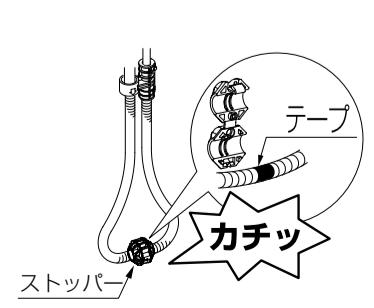
5. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。



注意

●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

6. ストップバーをホースのテープ部に取り付ける。



注意

●固定リングをはめ損ねないよう、必ずしっかりとはめ込んでください。
※外れると漏水の原因となります。

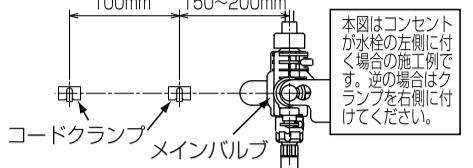
⑤ 電源部の接続

注 意

濡れた手で触れたり、水がかからないよう十分注意してください。
※発火・ショート・感電・故障の原因となります。

1. キャビネットの背板にコードクランプを取り付ける。

(下図2か所は必ず付けてください。)



100mm 150~200mm

本図はコンセントが水栓の左側に付く場合の施工例です。逆の場合はワイヤーを右側に付けてください。

コードクランプ メインバルブ

ACアダプターへ

白(小) 赤

コード クランプ①

センサーコード

電磁弁コード

メインバルブ

サーミスター

コード

白(大)

赤

コード クランプ①

センサーコード

電磁弁コード

ACアダプター

ストレーナの掃除

お客様が施工後すぐに使用しない場合

作動確認後、ストレーナを必ず掃除してください。
※ストレーナが詰まると流量が少なくなり、十分な機能が発揮されません。

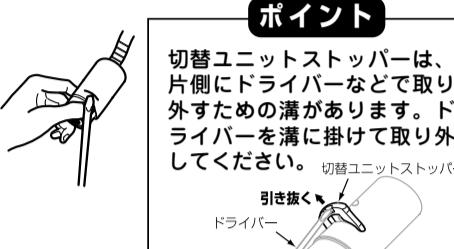
切替ユニットのストレーナの掃除

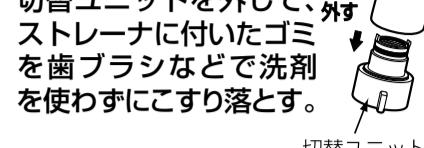
1. ハンドシャワーを引き出す。


ハンドシャワー
引き出す
 2. 裏側にある切替ユニットストッパーをマイナスドライバーなどで引き抜く。

ポイント

切替ユニットストッパーは、片側にドライバーなどで取り外すための溝があります。ドライバーを溝に掛けて取り外してください。



切替ユニットストッパー
ドライバー
吐水口側
引き抜く
 3. 切替ユニットを外して、外すストレーナに付いたゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。


ストレーナ
切替ユニット
 4. 切替ユニットを取り付ける。

ポイント

取り付けるときは、位置合わせの向きを合わせて差し込んでください。



位置合わせ

●切替ユニットストッパーを取り付けるときは、溝が吐水口側になるようにしてください。

●取り付け後は切替ユニットが抜けてこないことを確認してください。

注意



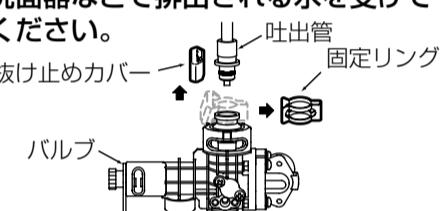
ストッパー溝位置
吐水口側
確認

ストレーナの掃除

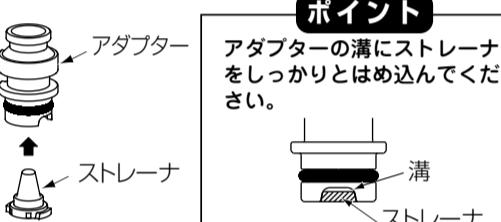
ストレーナは、メインバルブと浄水バルブに入っています。

- 止水栓を閉じる。
(右いっぱいに回す)

ポイント
止水確認および圧抜きのため一度センサーに手をかざしてみてください。

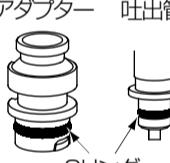
 - バルブの抜け止めカバーと固定リングを外し、吐出管からバルブを外す。
※洗面器などで排出される水を受けてください。

 - ストップリングをマイナスドライバーで外し、アダプターを外す。

 - ストレーナをマイナスドライバーで外し、ゴミを歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

 - ストレーナをアダプターに取り付ける。
ポイント
アダプターの溝にストレーナをしっかりとはめ込んでください。

 - アダプターをバルブに取り付け、ストップリングを取り付け、吐出管に接続する。


注意

アダプターを取り付ける際、および吐出管に接続する際、Oリングに傷をつけたり、ゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因となります。



逆止弁ソケット部ストレーナの掃除(水・湯給水部共通)

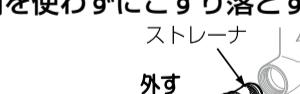
一般地仕様の場合

- 止水栓を閉じる。
(右いっぱいに回す)
 - 給水、給湯ホースを外してから逆止弁ソケットを外して、パッキン(青)を取り外す。

 - ストレーナのゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とし、水洗いして除去する。
 - パッキン(青)を元に戻して逆止弁ソケットを止水栓に固定する。
給水、給湯ホースを取り付ける。

寒冷地の場合

1. 給水（給湯）の止水栓を閉じる。
(右いっぱいに回す)

 2. ストレーナを取り外し、ゴミ等を歯ブラシなどで洗剤を使わずにこすり落とす。

 3. ストレーナを取り付ける。

③ 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたとき、水側または湯側のスポット微細シャワーの流量が8L/min（※）を越える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※：1リットルの容器をいっぺんに満たすのに約9秒)



5. 引渡前の確認

お客様が施工後すぐに使用しない場合は、ACアダプターを抜くか、もしくはブレーカーを落とす。

5. 引渡前の確認

注 意

●施工後は、メインバルブの水抜栓が閉じている（右いっぱいに回っている）ことを確認してください。（寒冷地仕様の場合）

※開いた状態のままだと、漏水の原因となります。

- メインバルブの手動弁を左いっぱいに回した状態で、タグをしっかり差し込んでください。
※タグがしっかり挿し込まれないと手動弁が回り、水が止まらなくなる可能性があります。

お客様に引き渡す前にもう一度通水し、次のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
吐水しない	止水栓は開いているか？	—	止水栓を開く。	施工後の調節「流量の調節」
	レバーハンドルは開いているか？	B	レバーハンドルを開く。	
	コンセントに電気がきていない または停電中ではないか？	J	ブレーカーを確認する。 *停電の場合、手動弁を開く（右いっぱいに回す）と吐水します。停電が解除されたら手動弁を閉じて（左いっぱいに回す）ください。	取扱説明書「停電および故障時の応急処置」
	ACアダプターがコンセントに差し込まれているか？	I	ACアダプターをコンセントに差し込む。	施工方法「電源部の接続」
	センサーの表面が汚れていないか？	E	汚れをふきとる。※1	
	コネクターが外れていないか？	H	コネクターを接続する。	
	断水中ではないか？	—	回復するまで待つ。	
	逆止弁が壊れていないか？ (凍結等により)	K	逆止弁を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
流量が少ない	圧力は十分か？	—	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	止水栓は十分開いているか？	—	止水栓を十分開く。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナにゴミ詰まりはないか？	F・L・N	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナの掃除」
	配管途中に大きな抵抗はないか？	—	抵抗となる障害物を取り除く。	
	レバーハンドルを絞りすぎていないか？	B	レバーハンドルを開く。	
水が止まらない	ゴミかみはないか？	D	ゴミ等を水で洗い流す。	
	キズはないか？	D	キズがあれば部品を交換する。	
	ゆるみはないか？	C	カートリッジ固定ナットを締める。締め過ぎるとレバーハンドルが重くなることがあります。	
	手動弁が開いてないか？	J	手動弁を閉じる。（左いっぱいに回す）	
	センサーの感知エリア内に障害物はないか？	E	障害物を取り除く。	施工の前に「施工完了図」 施工後の調節「作動確認」
	センサーの表面が汚れていないか？	E	汚れをふきとる。※1	
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か？(ゴミ、砂かみはないか？・Oリングにキズはないか？)	K	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	取扱説明書「定期的なお手入れ」
希望の温度が得られない	圧力は十分か？	—	圧力条件を確認する。	施工の前に「本製品の仕様と条件」
	流量調節はよいか？	—	適正流量に調節する。	施工後の調節「流量の調節」
	ストレーナにゴミ詰まりはないか？	F・L・N	ゴミ等を水で洗い流す。	施工後の調節「ストレーナの掃除」
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	G	ねじをしっかりと締める。	
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	A	ねじをしっかりと締める。	
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、メインバルブと干渉していないか？	M・N	ねじれおよび干渉していないか確認する。	施工方法「ホースの収納性の確認」

注意

※1センサー表面の汚れをふきとる場合は、キズをつけないようにしてください。
※土が付くと正常に動作しないことがあります。

以下の現象は、故障ではありません。

- 水を止めた後に少しのあいだ水が垂れますぐ、切替ユニットの内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。
- 電源付けると最初少し時にかけて音がするの付く音がするので、故障ではありません。

